

啄木のふるさと『もりおかの短歌』

年間応募総数1,048首

第3回 年間最優秀賞決定!

啄木のふるさと『もりおかの短歌』は、啄木が生れ育った盛岡を訪れる観光客や市民による啄木短歌の特徴である『三行書き』の短歌づくりを通じて『短歌のまち もりおか』を推進することを目的に平成二十年より実施している事業です。

年間を4つの期間（夏の部・秋の部・冬の部・春の部）に分け募集。

この度第3回目となる年間最優秀賞が決定いたしました。

年間の応募総数は1,048首、延べ288人の観光客や市民から投稿いただきました。

年間最優秀賞 (1首)

沿岸に幸よ来たれと

願ひこめ

峰の雪形驚飛び立ちぬ

岩手県滝沢村 小田佐枝子

受賞者コメント

「学校の授業で習っただけの私がこのような賞に選ばれてとても光栄に思います。東日本大震災では、私の友人も津波で家を失いました。被災地の一日も早い復興と、被災された方々の辛を願って作りました。」

審査員講評

●岩手山の雪どけの季節、消えゆく鶯のかたちに災害からの復興の希望を託している。

●5月上旬、岩手山に鶯の雪形が現れると、農家の人たちは田畑の種まきを始めます。震災から2ヶ月が経った頃、被災地の人たちのことを思いながら今年も、いつものように種まきをした内陸の人々―遠くから「沿岸に幸よ来たれ」と、ただただ祈るばかりのその気持ちが鶯に託され、詠まれています。

うた

ばの確に祭りの雰囲気を伝えている。
●盛岡のさんさ踊りを詠んだのでしよう。「烈しさもまた美しさ」の表現が今時のさんさ踊りを表現するに、とても似合っています。啄木も盆踊りが大好きでした。
●盛岡さんさ踊りはテンポの速い踊りで、その激しさもまた美しい。腰に飾った五色の帯が、まるで散るように激しく揺れ、輪踊りの中では渦を巻くように見える。
●「五色の帯」「輪踊り」から盛岡さんさ踊りを連想した。他の町であれば、読者それぞれが別の祭りに置き換えて鑑賞しても構わないと思う。「五色の帯の散れる」が作者の視たところであり、捉え方に独自性がある。華やかな色彩と、踊り手の躍動感、その場の熱気が伝わってくるような臨場感がある。

杜の街

石も流れも肅々と

影を濃くして冬を迎える

神奈川県横浜市 森木 康一

受賞者コメント

「盛岡市は以前から私にとって好きな町の一つですが、昨年の12月に訪れた時はとても風の冷たい日でした。啄木・賢治青春館や、盛岡駅の構内の短歌投稿ボックスを見つけ、その日の宿の松川温泉にて慣れない短歌作りに挑戦してみました。年間の優秀賞を頂けるとは思ってもいなかったため、望外の喜びです。3月に被災された方々が一日も早く心安らかな日々を迎えられますよう心よりお祈り申し上げます。」

審査員講評

●冬に向かう北国の感じを緊張感をもって捉えている。

●「盛岡」は「杜陵」とも言われるように杜の街です。そして静かに北上川が流れる様子も表現され、川の流れるように心静かに生きる作者の姿が窺われます。

●盛岡の町を貫流する中津川。石も流れも静かでひっそりしており、しかも影がはっきり見えている様子が、北国盛岡の初冬を象徴している。
●普段の生活では気にも留めないが、見回せば盛岡は豊かな森に恵まれている。晩秋の北上川、

中津川、いずれの流れもトーンを落として厳かでさえある。「肅々と影を濃くして」の表現は、そんな雰囲気をうまく言い得ている。川底の石までもあきらかに見える街川に鮭の帰る日も近いのだろう。

奨励賞 (2首)

中津川

初夏の風吹く川べりを

ともに歩きし人いまいざこ

東京都練馬区 久慈 博子

受賞者コメント

「思いがけない年間賞のお知らせを頂いてただただ驚いています。盛岡は私が青春時代の数年間を過ごした街で、今は、たった一人、盛岡に残っている母の介護を兼ねて数か月に1度訪れております。その際に、必ず盛岡の街を歩いており、そのときに思い、感じたものを短歌といたしました。自分の短歌の師匠は、石川啄木と勝手に決めております。啄木の歌は、わかり易い言葉ですんなりと心に入ってきますが、彼の境遇や生きざまを知れば知るほどその歌の重みを感じるようになりました。さりげない一首なのに、一つのドラマになっている、詠む人の想像力を掻き立てる、私もそのような歌を詠えたらと思います。」

夕暮れて

十六羅漢の裏手より

今日も聞こゆるさんさの太鼓

岩手県盛岡市 鈴木 文子

受賞者コメント

「夏のある日、夕暮れ時の街の情景を詠みましたが、東日本大震災以降、何気ない日常が、今こそ愛おしく思われてなりません。被災された方々が、一日も早く元の日常を取り戻されるよう祈念しております。」